

打 合 せ 記 録 簿 （ 1 / 5 ）

件 名	土岐市まちなか未来会議	
日 時	令和 6 年 11 月 29 日（火） 14：00～16:15	
場 所	土岐市役所 2 階会議室	
出 席 者 (敬称略)	委員	名古屋都市センター特任アドバイザー 加藤 義人 泉町連合区会 加納 弘夫、土岐商工会議所 石黒 信彦 土岐市観光協会 山村 公秀 土岐青年会議所 加藤 大祐 土岐市公私立こども園長会 加藤 隆浩 土岐市商店街連合会 和田 武雄 市民ワークショップファシリテーター 三田 祐子 土岐市 鷺見 直人
	土岐市	林理事、水野公室長、堀尾課長、中垣課長補佐、井本
	UR リンケージ	瀬木、山川、一木、西口、瀬野(記)

議事録

委員長の選出、副委員長の指名

土岐市まちなか未来会議設置要綱に基づき、委員の互選により名古屋都市センター特任アドバイザーである加藤義人氏が委員長に選出され、加藤委員長により、鷺見直人氏が副委員長に指名された。

議 題

(委員長)

本会議では、軸足をまちなか居住において議論を進めつつ、現在土岐市に住んでいる方やこれから移り住んで来られる方にとって、よりよいまちづくり構想案を作成していきたい。

本日の未来会議は、3つの議題（「土岐市及び土岐市駅周辺の現状と課題について」「第1回 土岐まちなか市民ワークショップ開催結果について」「第1回 土岐市まちなか未来会議の論点について」）のうち、3つめの「第1回 土岐市まちなか未来会議の論点について」が中心議題である。

議題 1. 土岐市及び土岐市駅周辺の現状と課題について

(UR リンケージ)

土岐市及び土岐市駅周辺の現状と課題について、資料 3 にもとづき報告。

議題 2. 第 1 回 土岐まちなかワークショップ開催結果について

(三田委員)

11/4(月・祝)に行われた第 1 回『土岐まちなかワークショップ』の概要について、資料 4 にもとづき以下について報告。

- ・ワークショップは、NPO 等を中心に 21 名が参加し、4 グループに分かれて実施
- ・ワークショップは次の 2 つの内容について意見交換を行った。
 - ①土岐市の好きな・紹介したい 3 つ（ひと・もの・こと）を紹介しよう
 - ②土岐市駅周辺で未来の過ごし方について話そう

(委員長)

ワークショップでは、前線で活動されている若い方の貴重な意見を出していただいたと思うので、各団体の長の方が集まっているこの会議では、若い方の意見をどう受け止めていくかということも問われるものと考えている。

打 合 せ 記 録 簿 （ 2 / 5 ）

議題 3. 第 1 回 土岐まちなか未来会議の論点について

「**論点① 特に活用していくべき又は活用していきたい地域資源**」については、委員から以下のような意見が上げられた。

- ・土岐川という資源の活用。ウォーキングなどができれば土岐市が目指す健康づくりの目標とも合致。
- ・土岐市駅北側の駐車場は、土日は車が停まっていないため、これを活用してはどうか。
- ・駅までの通りには空家・空き地が多いので、定住人口を増やることが必要。低層階マンションで通勤圏の人口が増えるとよい。
- ・土岐市駅の北にある遺跡群と高山城の春の桜は活かしたい地域資源である。
- ・土岐市文化プラザの活用。この規模のものは中部圏にはあまりないと聞いているので、これを活用すれば人も呼べるし、駅からの人の流れができる。しかし、現状は歩道もなく、歩くのは不便である。
- ・1400 年の歴史を持つ美濃焼きという歴史資源と豊かな自然というのはまちの付まいとして活用しない手はない。
- ・生活利便施設というのがそれぞれの地域に存在するという状態を維持していくことが住みやすいまちにつながる。
- ・子育て、医療、福祉、教育、商業等の施設を民間の力を借りながら公共施設と一緒に整備していけると良い。
- ・回遊性が悪い。駅前通りは歩道の幅が狭く、車椅子が通れない。また、既存の建物が老朽化しているが、各店舗に建て替えの体力がないので、道路の拡幅に合わせて建替えを推進することができないか。
- ・美濃焼を発信する場所が駅から近いところにあるのが理想。
- ・駅周辺には空地が増えている。駅前の建物を取り壊す話があり、今がチャンスの時ではないか。
- ・若者は土岐市駅を通勤通学で利用しているが、やることがないため、ただの通過点になっている。若者達の活気が見られる場所があるとよい。例えば、土岐の自然や美濃焼が感じられる場所で、若者や子どもが集える場所がハード面とソフト面の両方であると良い。
- ・織部の里公園、歴史博物館、段尻巻・乙塚古墳、恐竜が発掘された場所が駅から 10 分圏にあるというのは、多治見や瑞浪には無い資源。これらを中心市街地と結び付けて活用できればと思う。
- ・ただ、駅前の開発は意見を出し合うだけで実行することができていない。これからは市が責任をもってやるということが必要。10~20 年先の話しとなると全て変わってしまうので、誰かが責任をもって実行することが必要になる。

（委員長）

まちづくり構想の後、市としては、構想を踏まえてそれをどのように実行していくかということを次回以降に説明してもらうこととしたい。

「**論点② まちの将来像を検討する上で、特に着目すべきこと**」については、委員から以下のような意見が上げられた。

- ・交流人口はあるので、やはり定住人口を増やしたい。マンション等を建て、人を増やすことを考える必要がある。

打合せ記録簿（3/5）

- ・ 駅北の土日の駐車場を利用して美濃焼を定期的に販売するなどしてはどうか。若者がこうした場所（の運営）に係われるようにすることも必要だと思う。
 - （委員長）：夜間人口を増やし、商業につなげていくことには同感である。
 - ・ 人口が減った上で都市としてどう機能させていくかを考えておくかを考えるべきである。
 - ・ 上下水道のインフラ整備等の範囲について線引きを考えた上で、まちづくりしていかないと持続できない。そう考えると、駅を中心としたコンパクトなまちというのを中心に据える、あるいはエリアごとに中心拠点をつくってその拠点間を公共交通でつなぐようなまちづくりができればと思う。
 - （委員長）土岐市の立地適正化計画の策定等状況はどうなっているか？
 - （土岐市）同計画を策定予定。現在、調査を実施中。
 - （委員長）現在、土岐市においても駅を中心とするコンパクトなまちづくりを考えられている。
 - 本会議では、駅からの半径1キロ圏のまちづくり構想を策定予定であることから、基本的にはその区域がコンパクトなまちづくりの対象と考えられる。
 - ・ 子育て福祉の観点からいうと、子育て世帯が好んで行って過ごせる場所がない。最近では支援が必要なこどもが増えているが、障がい者や高齢者、学生など色々な人が集える場所づくりというのが必要。
 - ・ 石川県小松市の小松駅構内にあるフリースペース兼飲食店の小松 KABULET※では、就労支援も行って、そこには子どもが勉強する場所もあり、賑わいもあるため自然に人が集ってくる。土岐市にはそういう場所がないので、いろんな人が集える場所づくりというのが着目点と思う。
 - ・ 街の将来像としては、住む人が快適で過ごせるところが望ましいと考える。
 - ・ それぞれのステークホルダーと一緒にやっていくという思いを共有し、主体的に自分たちで何ができるかを考えて動いていく必要がある。
 - （委員長）地権者や商店街の人が何に苦しんでいるかも含めて、それぞれの役割、ニーズを共有することが必要である。
 - ・ 引きこもりの支援やお母さんための保育所など、商店街として空店舗等を活用して場所の提供ができればと思っている。ただし、商店街がやるといっても店主が活動できるというわけではないので、運営については、NPO やボランティアの協力が必要。そのための議論を行いたい。
 - ・ 商店街で中央橋から駅まで使用できる無料 Wi-Fi をひいた。ぜひ使ってほしい。
 - ・ 人が集まれるというのがポイントと思う。人が集まれる場所というのは将来の思い出になる。進学就職で一旦土岐市を出た時にふと土岐市のことを思ったときに、土岐市に思い出の場所があれば戻るきっかけになる。
 - ・ こどもの親世代の居場所や年配の人が集まれる場所があると人も増えると思う。
 - ・ 夜中に飲食できる場所が無く、土岐市にお金を落とせるお店が無くなってしまったので、そうした飲食店が必要。
 - ・ やはり実行する人が必要で、そのためには行政が商工会議所や観光協会と連携してまちづくり会社を設立し、活動等の受け皿となることが必要になる。多治見の例もある。
- （委員長）
- まちづくり会社についてはどこかのタイミングでそれがつくれるかどうか議論したいと思う。

打 合 せ 記 録 簿 （ 4 / 5 ）

「**論点③ 将来のまちの活動等のイメージ**」については、委員から以下のような意見が上げられた。

- ・公民館を高齢者やお子さんが集まり、交流できる場所にすることを目指している。駐車場や空きスペースなどを利用してもよいが、世代交流により人と繋がれることが必要である。
- ・歩いて楽しい街になったらというのがあるが、歩道がない、あるいは歩道が狭いと安心して子どもを歩かせられない。子どもから年長者まで、楽しんで歩ける場所にしたい。
- ・子ども、お年寄りが集える場所をつくることで、それぞれがそれぞれの目的で自然と集える場所づくりというのが実現できないかと思う。土岐市には寄り道温泉やアウトレットモールに温泉があるので、駅周辺に足湯でもあると一足延ばして寄ってもらえる場所になるのではないかと思う。
- ・安心快適、楽しく人がつながる場所ができれば、若い人に受け入れられるまちになると思う。
- ・まちには、統一感が欲しい、良い商店街といういのは何らかの統一感を持っている。それを目指したい。
- ・店舗の世代交代があっても、テナントとして次の事業者が入りやすい状況をつくることができれば持続可能なまちになると思う。
- ・商店街のアーケードを外してしまったが、雨が降っても安心して移動できるところが望ましい。
- ・アーケードは維持費かかるのではずした経緯がある。
- ・将来のために今やること、今どうするかを考える必要がある。
- ・会社で、まちづくりに活用可能な不動産も保有しているが、いつまでもそのままというわけにはいかない。行政と一緒に今後どうするかを考えていきたい。
- ・行政では難しいことも、商工会議所であればできることもある。行政から要請がないと動きづらいこともあるため、行政から要請するようにしてほしい。

（委員長：本日の会議の取りまとめ）

論点① 活用すべき資源

土岐川をはじめとする自然と美濃焼、新博物館が資源という意見のほか、若者が集い滞留し、笑顔で楽しく過ごせると良いといった意見もあったが、それも資源になるのではないかと思う。

論点② まちの将来像を検討する上での着眼点

複数の委員から集まれる場所が必要という意見が出された。その場所には「誰が」という主語が必要であるが、子ども、若者、ご老人、障がい者などいろいろ意見をいただいた。加えて、まちづくり会社が必要になってくるといった意見もあったと思う。

論点③ 将来のまちの活動等イメージ

集まる場所について多くの意見があり、安心感、楽しそう、笑顔がはじける、というのが共通のイメージとしてあったと思う。

まちづくりをやるなら統一感が必要という意見もあったが、それを考える際に、美濃焼は外せないものになってくるといえるのではないかな。また、歩者分離や屋根といったインフラの意見もいただいた。

まちなか居住の推進について

名古屋が若者を土岐市や多治見市から吸い上げてるイメージがあるかもしれない。学生は確かに名

打 合 せ 記 録 簿 （ 5 / 5 ）

古屋に来る。ところが20代半ばになると圧倒的に東京、30代でも東京へ出て行ってしまう。就職転職のたびに東京に吸い上げられているというのが現状である。学生で名古屋に来て働くときには東京に出てしまう。そして子育て世帯の30代から40代も名古屋市から流出している。これは土地が高騰して住宅が買えないということが理由になる。しかし、毎年、外国人と学生が入ってくるので人口は減少していない状態にあるが、実際には衰退の前兆にある。

なぜこの話をしたかという、子育て層が住宅事情により名古屋市から流出超過している、それを土岐市に受け入れれば良いのではないかと考えられるからである。資料3のデータによれば、土岐市から名古屋へ通勤している人が多くいることが分かるので、もし、素晴らしい土地があることをアピールできれば土岐市への転入の動機になる。

ただし、広くて良い家があるだけでは他都市との競争には勝てないので、本日の議論はそこを補うための議論であったと考えている。

その他

次回は令和7年1月を予定。12月22日には第2回ワークショップを予定しており、その結果も報告させていただく予定。

以上